

愛知県議会イスラエル国訪問概要報告 2022.10.31~11.5



愛知県議会議員 鈴木 純

■訪問団メンバー

神野団長⑤ 中野副団長⑤ 川島議員④ 高桑議員③ 成田議員② 田中議員② 杉江議員①
日高議員① (以上自民 8 名)

副団長鈴木④ 長江議員④ 谷口議員④ 森井議員④ 渡辺議員② (以上新政あいち 5 名)

木藤副団長⑤ (公明) 柴田議員④ (無所属)

随員 和田議事課担当課長 添乗員 名鉄観光サービス伏見支店 矢野氏 加藤氏

■概略日程

- 10/31(月) 名古屋駅→成田国際空港→ドバイ
- 11/1(火) ドバイ→イスラエル国ベン・グリオン国際空港
テルアビブ→エルサレム/エルサレム市内視察
- 11/2(水) イスラエル博物館視察/ヤド・ヴァシエム訪問
エルサレム→テルアビブ/愛知県企業との夕食会
- 11/3(木) Jakore 訪問/Start-Up Nation Central 訪問/
スタートアップ企業視察(ハイザリア)
- 11/4(金) 在イスラエル日本大使館訪問
ベン・グリオン国際空港→ドバイ
- 11/5(土) ドバイ→関西国際空港→名古屋駅



議員団 15 名

■イスラエル国概要

面積 2.2 万km²(日本の四国程度)

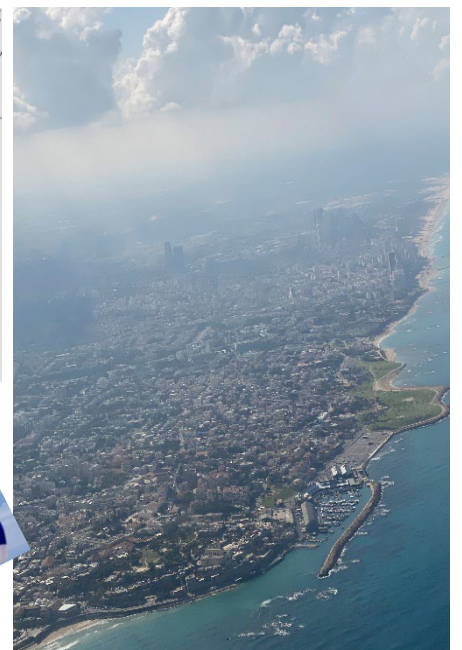
人口 約 950 万人

首都 エルサレム

在留邦人 1,156 名

民族 ユダヤ人約 74% アラブ人約 21%ほか

宗教 ユダヤ教約 74% イスラム教約 18% キリスト教約 2%他



ドバイから砂漠上空をイスラエルへ ベージュ色のイスラエルストーン

ベン・グリオン国際空港着陸へテルアビブの海岸エリアを望む

《調査概要及び雑感等》

■エルサレム市内視察

ユダヤ教、キリスト教、イスラム教にとって聖地と云われるエルサレム市内をベテランガイドの信夫 SINOBU 氏に案内・講義して頂き、実際にキツパを頭に乘せユダヤ人にとって最も大切な祈りの場である西の壁(嘆きの壁)に手を触れ、キリストが十字架を背負って歩いたヴィア・ドロローサや人が溢れる聖墳墓教会などを見学して、それぞれの宗教の成り立ちと関係性や国民性を深く知ることができました。特に、救いの神であるイエスをユダヤ教徒が処刑させたことがユダヤ迫害の根底にあるということに衝撃を受けました。また、権力者や対立する宗教による迫害・破壊の歴史を再認識しました。

みんな NO マスク



オリーブ山から旧市街地を望む



西の壁の向こうに岩のドーム



西の壁(手前が男性専用、奥が女性専用)



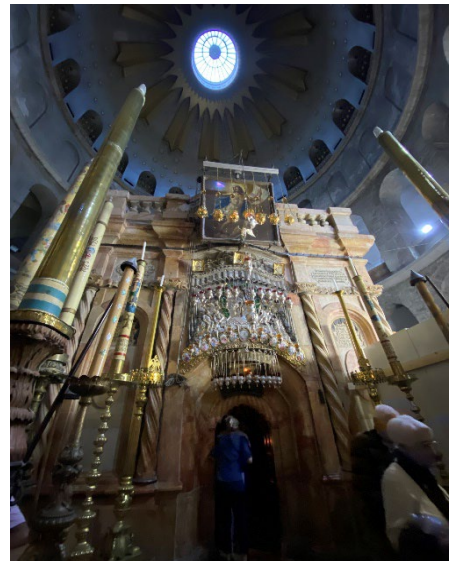
キリストの道 ヴィア・ドロローサ



■イスラエル博物館視察

昨日オリーブ山から見た旧市街地の第2神殿時代(紀元前538年～紀元後70年)の50分の1の大きさの精巧な模型はイスラエルストーンと呼ばれる石灰岩で作られています。エルサレムの白いベージュの街はこの地元産の石によるデザインコードで景観を維持しているとのこと。世界の聖書学会にセンセーションを巻き起こした20世紀最大の発見と云われる死海写本、ユダヤ人の日常生活に関する展示などを見学しました。

死海写本館内部画像 UN VENERDI' A GERUSALEMME E BETLEMME - Muri vecchi e nuovi HP より



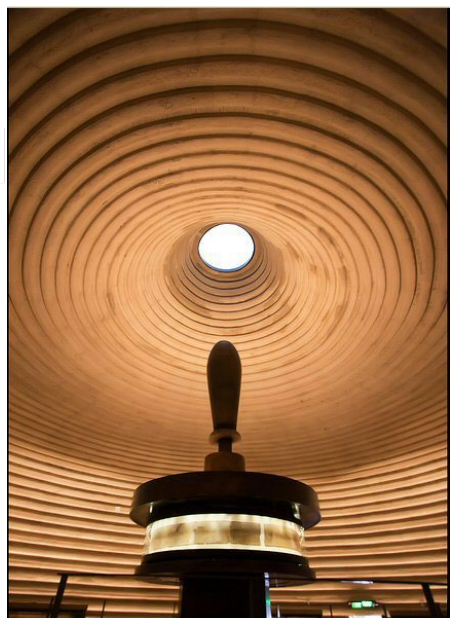
聖墳墓教会



第2神殿時代の模型



考古学棟



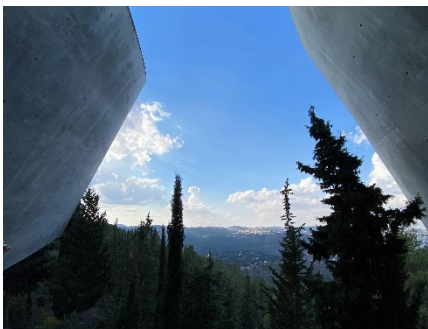
死海写本館

■ヤド・ヴァシエム訪問

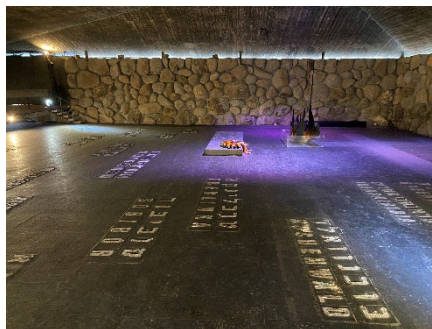
ヤド・ヴァシエムエントランス前で



1953年に設立されたナチス・ドイツによるユダヤ人大虐殺(ホロコースト)の犠牲者たちを追悼するイスラエルの国立記念館、ヤド・ヴァシエムでは、600万人(その内幼い子供は150万人)とも言われる犠牲者の一人一人に愛する人愛される人がいたことを改めて想起し心が震えました。ガイドの石堂氏によると「殺害されると分かっている子供達の教育を続けるなど生きている意味を求めている」と、凄惨な状況での精神・信仰の力を感じました。ただ、事前に教育企画室から聴取したように杉原千畝氏については2万7千人に授与されている**諸国民の中の正義の人**の一人(日本人では唯一)ということで記念樹に氏の銘板があるのみで残念でした。館内に展示されるのは命の危険を冒した人(ガイド)に限られるということでしたが日独伊同盟があり日本政府が公式に認めていない中の英断で「命(運命)のビザ」を発給した杉原氏を訪れた皆様を知って頂きたいと思ひます。



館出口から遠望



知事が献花された慰霊のホール



杉原千畝(Sempo)の記念樹と顕彰碑と(拡大)

■パール・ショー様(サバイバー)との面談

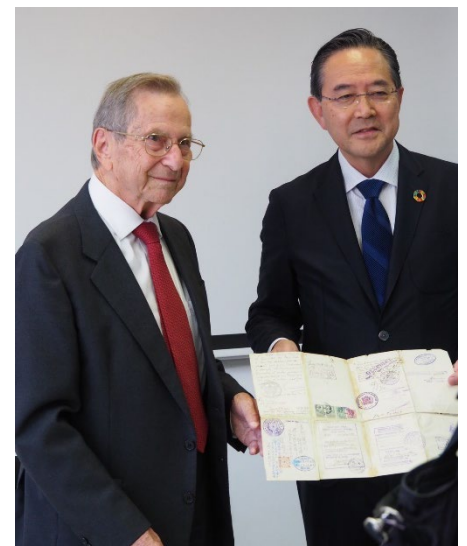
1927年生まれの94歳のパール・ショー氏は、ナチス・ドイツがポーランドに侵攻したときは12歳、叔父の行動力と機転により幾多の困難(生命の危険)を乗り越えて杉原千畝領事代理から日本通過ビザの発行(1940年7月30日付、杉原リスト第77番)を受け、1941年3月に敦賀に到着、同年7月にニュージーランドへ出立、1955年にイスラエルに移住されました。パール・ショー氏からは2千を超えるビザ(カウナスでのリスト最終番号は2139、実質は2140)を発給した杉原氏への感謝と、その倍以上の難民が救われていることから日本国政府への感謝も表され、ユダヤ人の多くはセンポ・スギハラのごことは知っていると言われました。



研修室にて(右は公認ガイドの石堂氏)



お持ち頂いた渡航関係資料



パール・ショー氏と

■愛知県企業との夕食会

(株)デンソーデンソーイスラエルイノベーションラボの下ノ本所長並びに豊田通商(株)テルアビブ事務所の嘉村氏との懇談では、来春のテルアビブへの直行便への期待やコンテナサイズの原子力発電など周辺国等に対して自国のみでエネルギーや水、農業を維持する必要に迫られている中でのスタートアップ(特に軍事・情報系)に関するイスラエルの独自性と“目利き”の重要性、19歳から

男性 3 年間、女性 2 年間の徴兵制(予備役も毎年 1 か月余りの訓練)のなかでの人材や給料など暮らしについて実態を伺いました。入社は勿論、昇進試験でも TOEIC テストがあるのが当然とのことでした。



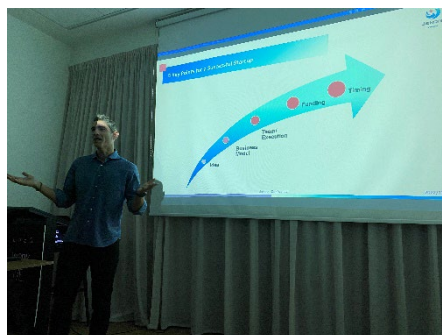
ポークはだめ、肉と乳製品は一緒に取らないなど全体に野菜中心の食事

■ Jakore (ジャコーレ) 訪問

Jakore イスラエルはコンサルティングファームとして 2017 年に設立され、ジェトロ・テルアビブと連携しジェトロ・グローバル・アクセラレーション・ハブの実施など日本-イスラエル間の企業進出を支援しています。日本語に堪能な Yony (ヨニー) 代表より、スタートアップ成功への 5 つの鍵、アイディア、ビジネスモデル、チーム、ファンド、タイミングの話では特にチームとして活動することの重要性とそのためのコミュニケーションの取り方、そして世に送り出すタイミング-早すぎてもダメ、時間をかけてもダメ-の見定めやテルアビブを中核とした企業立地、Thinking Outside of The Box : 常識にとらわれない、生き残る力が強い、リスクを取ることを恐れない、失敗を恐れない、上下関係が少ないなど企業文化(国民性)をお話し頂き、エルサレムで見聞したこれまでの厳しい歴史からも理解しました。1 日お付き合い頂いたヨニー代表に雑談の中で日本では会社は我が子と同じという話をしたところ、スタートアップ企業も M&A などで資金調達した次の段階で自社を育てるといった新たなフェーズになってきているのではという話があり IPO (新規株式公開) も含め EXIT が目的のような中、少し安心しましたが…スタートアップには向かない X 世代前の人間です。



日本語が堪能なヨニー氏



スタートアップ 5 つの鍵



イスラエルの企業立地

■ Start-Up Nation Central 訪問

2013 年に設立された Start-Up Nation Central はこの 5 月 23 日にオープンイノベーション支援における連携に関する覚書(MOU)を締結した非営利法人であり、イスラエルのテクノロジーエコシステムに精通しており、イスラエルのスタートアップと国内外の企業、政府、投資家などのパートナーシップの取組について伺いました。データベースの運営など業績もさることながら成功したスタートアップの寄付等により運営されているマインドがビッグです。



Jeremie Kletzkine 氏



Yanay Geva 氏



アプリで電動キックボード

カイザリアとテルアビブ



■スタートアップ企業視察① H2PRO 社訪問

2030年に水素 1kg = 1ドルを目指すスタートアップ企業で、どこでも入手可能なニッケルをコイルにした装置を移動可能なコンテナに装備するシステムで日本の電力会社からも問い合わせがあり来年は1日の生産量を今の10kgの20倍にする計画の水素発電のモノづくり企業です。



ミーティングにはお茶とクッキー



モノづくりの現場



防護メガネを着用して見学

■スタートアップ企業訪問② Airev 社訪問

Everybody Wants To Fly を掲げ航続距離 177km、最大飛行時間 1h の二人乗りの電気飛行機関を 2024 年中に商品化(現在予約受付中で基本価格約 2,250 万円)を目指すモノづくり企業、公的支援について質問しましたが如何にも独立独歩の中小企業の親父さんという回答でした。



最新機をバックに



大使館の方も同行



手作り模型もあるモノづくり現場指揮者

■在イスラエル日本大使館訪問

水嶋特命全権大使にお目にかかりフランクに意見交換させて頂きました。鈴木からはヤド・ヴァシエムの杉原氏へのプレゼやサバイバーの方が日本政府に感謝していることをお伝えしましたが大使からは杉原氏だけを取り上げるのではなくユダヤ難民の支援にあたったソ連出国に尽力した外交官や日本滞在などの総合的な取組や、敦賀、神戸、横浜など千畝ルートなども検討してはとお言葉を頂きました。また、来春の直行便にも触れられ日本からビジネス・観光に多くの方がイスラエルを訪問するように魅力を PR して頂きたいとのことでした。



大使を囲んで意見交換



韓国でも大任を務められた大使



5泊6日(機中2泊)の強行軍でしたが、神野団長はじめ議員各位、和田氏、矢野氏、加藤氏、現地ガイドの皆さん、日本で準備・研修頂いた皆様、背中を押して頂いた大村知事に感謝です。 **愛知県議会議員 鈴木 純**



知事いわくアメリカの西海岸➡